



仲間と共に

学校目標「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」

令和7年5月1日

将来の成長の糧を支援する

校長 石田耕太郎

朝8時5分。今日もグラウンドに元気な声が響き渡ります。「鬼ごっこしよう！」「一緒に入れて」「いいよ」聴いていて心が温まる言葉のやり取りです。昇降口からは、「少しの時間も無駄にはできない！」という思いが感じられるほどの勢いで駆け出していく姿があります。私の大好きな時間の一つであり、こうした子どもたちの姿がこれからも続いていくことを願わずにはられません。



4月下旬から5月になると、植物の成長が大変盛んになります。ふるさと三輪南の畑では麦の穂が一斉に伸び、麦秋と呼ばれる6月頃に収穫を迎えられるようになります。日々通勤のおり、この麦を見ていると本当にわずかな期間で、一気に成長していることが分かります。こうして一気に成長するのは気温や降水量など、その植物の成長にとって必要な条件が整ったからです。気温が低く、降水量が少ない冬の期間は、ゆっくりと成長をし、条件が整うと

も一気に成長する様子を見ていると、「子育て」と似通ったものを感じます。植物にとっての「気温や降水量」は、子どもたちにとっての「夢や希望・興味や関心」ではないでしょうか。好きなことが見つかったり、なりたい自分の姿が見えてきたりしたとき、そのとき子どもたちの才能は一気に開花し、ぐんぐんと成長していくのだと私は信じています。だからこそ、ゆっくりと成長しているときが大切でもあります。例えば麦を例にすると、芽吹いた麦を踏む「麦踏み」をします。これはより病気や外因の変化に強い麦にするため行われます。子どもたちがゆっくりと成長しているときにこそ、「麦踏み」のように、しっかりと将来の成長の糧となることを体得できるよう支援する。それこそが、私たち大人がしなければならない事ではないでしょうか。

今年度前期児童会宣言「仲間を思いやり、進んで助け合える三輪南」が企画委員長から全校へ提案されました。宣言に込められた「思いやり」や「助け合い」は、日々子どもたち自身が地域の方や保護者の方とのふれ合いの中で実感しております。私たち大人は、子どもたちにとっての一番身近なお手本です。私自身、それを心に留め子どもたちとの生活を創っていかうと思います。

児童会宣言

仲間を思いやり、
進んで助け合える三輪南